

今日のトピック ブラジルの金融政策（2016年3月）

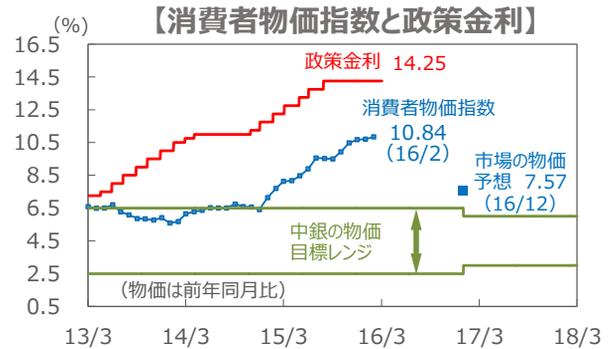
5会合連続で政策金利据え置き

ポイント1 6対2で据え置きを決定 2名は0.5%の利上げを主張

- ブラジル中央銀行（以下、中銀）は2日、政策金利を14.25%に据え置くことを発表しました。前回1月の会合と同様に、8名の委員のうち6名が政策金利の据え置きを主張した一方、2名が0.50%の利上げを主張しました。
- 政策金利の据え置きは、15年7月に0.50%の利上げを行った後、同年9月から5会合連続となり、市場の大方の予想通りの決定でした。

ポイント2 景気と物価の両方を警戒 景気に配慮し利上げを見送り

- 消費者物価指数は、16年2月（月前半）に前年同月比+10.84%と5カ月連続で上昇しており、年末時点でも同+7%台半ばに高止まると見られています。実質GDP成長率は、国際通貨基金（IMF）が15年は前年比▲3.8%、16年は同▲3.5%と予想しているように、2年連続のマイナスになる見込みです。
- 物価高と景気後退の長期化が懸念される状況下、中銀のなかでは景気を配慮する委員が優勢となり、利上げが見送られました。



(注) 政策金利は2013年3月1日～2016年3月2日。(年/月)
消費者物価指数は2013年3月～2016年2月（2016年2月月前半）。市場の物価予想は、中銀が2月29日に発表した市場予想。中銀の物価目標は年+4.5%。レンジは2016年末まで±2%、2017年以降±1.5%。

(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データは2015年3月1日～2016年3月2日。
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 政府・中銀の景気への配慮で、景気見通し改善が待たれる

- ブラジルレアルのこれまでの下落を受け、物価押し上げ懸念から利上げ観測は消えにくいと思われます。ただし、昨年12月に財政緊縮に積極的だった財務相が更迭されるなど、政府は景気への配慮を強めており、中銀もすでに景気重視に傾いています。
- 政府・中銀が景気への配慮を強めた影響は、消費者信頼感指数の改善にあらわれていると見られます。レアルは原油価格の反発などから足元で下げ止まりつつあり、市場の景気見通しが改善すれば、レアルが持ち直す要因になると期待されます。

ここもチェック! 2016年 2月29日 「政策転換」で景気下支えに期待（ブラジル）
2016年 2月25日 ムーディーズがブラジル国債を非投資適格級に格下げ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。